

雌阿寒岳の火山活動解説資料（平成22年2月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成21年4月10日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙及び熱活動（図2～3）

ポンマチネシリ96-1火口、中マチネシリ火口の噴煙の高さは火口縁上概ね200m以下、赤沼火口、北西斜面06噴気孔列の噴煙の高さは火口縁上概ね100m以下で、噴煙活動は低調に推移しました。

・ 地震活動（図2～4、表1）

火山性地震は一日当たり3回以下で、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図5～6）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は観測されませんでした。

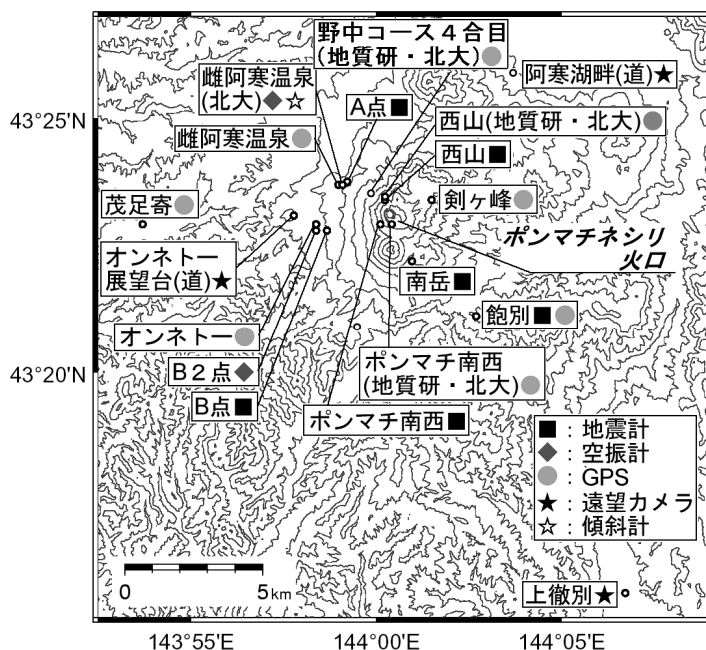


図1 雌阿寒岳 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成22年3月分）は平成22年4月8日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平20業使、第385号）。

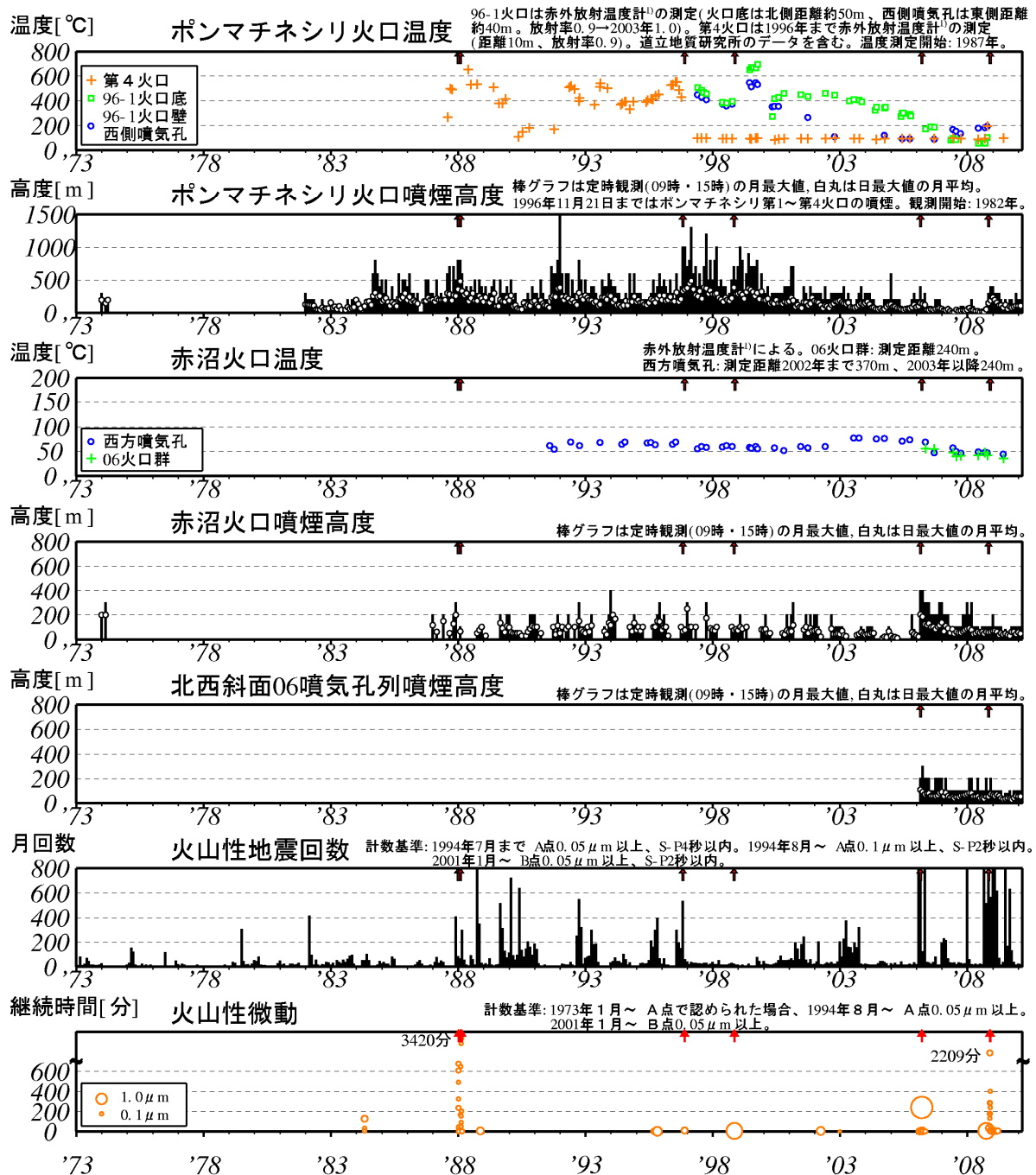


図2※ 雌阿寒岳 長期の火山活動経過図（1973年1月～2010年2月） ↑印は噴火
 （1988年、1996年、1998年、2008年：ポンマチネシリ火口南東側からの噴火、2006年：赤沼火口からの噴火）

- ・ ポンマチネシリ火口では、1988年以降ごく小さな噴火が繰り返されています。これに対応して、火口温度の高温状態や噴煙活動の活発な状態が1987年以降1999年まで続いていました。この間、地震回数は増減を繰り返し、火山性微動も時々発生するなど地震活動は活発な状態が続いていました。
- ・ その後、ポンマチネシリ火口の熱活動や噴煙活動は徐々に低下傾向となり、2003年以降は地震活動を含め火山活動は比較的静穏な状態で推移していましたが、2006年2月からはポンマチネシリ火口直下の西側を中心とする地震活動が活発化し同年3月に赤沼火口内及びポンマチネシリの北西側斜面でごく小さな噴火が発生しました。
- ・ 2008年9月以降、地震活動の活発化、火山性微動の発生、熱活動の若干の高まり等がみられ、11月にごく小さな噴火が発生しました。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

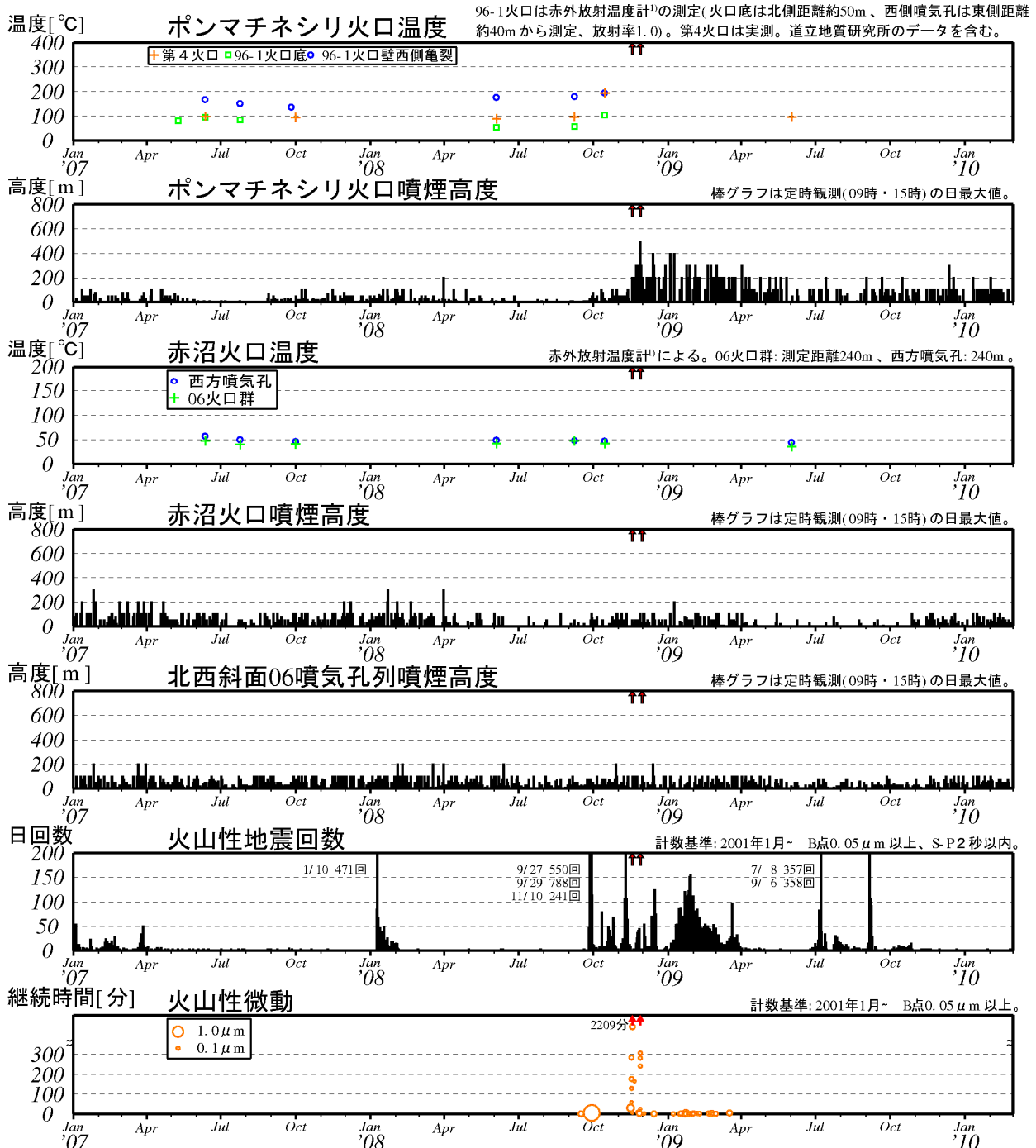


図3※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図（2007年1月～2010年2月） ↑印は噴火

- ・2008年9月以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生など地震活動の活発化とともに、10月にはポンマチネシリ火口温度の上昇が認められ、2008年11月にごく小さな噴火が発生しました。
- ・その後、火山性地震は2009年3月にかけて増減を繰り返し、小さな火山性微動も時々発生しました。4月以降は、7月・9月に火山性地震が一時的に増加しましたが、地震活動は概ね低調に推移しています。
- ・火山性微動は2009年4月以降発生していません。
- ・ポンマチネシリ火口の噴煙活動は2008年11月のごく小さな噴火以降やや活発な状態で推移していましたが、現在は低調な状態です。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（図 1 の B 点で計数）

2009～2010 年	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月
地震回数	617	68	15	33	818	163	637	132	34	16	19	18
微動回数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

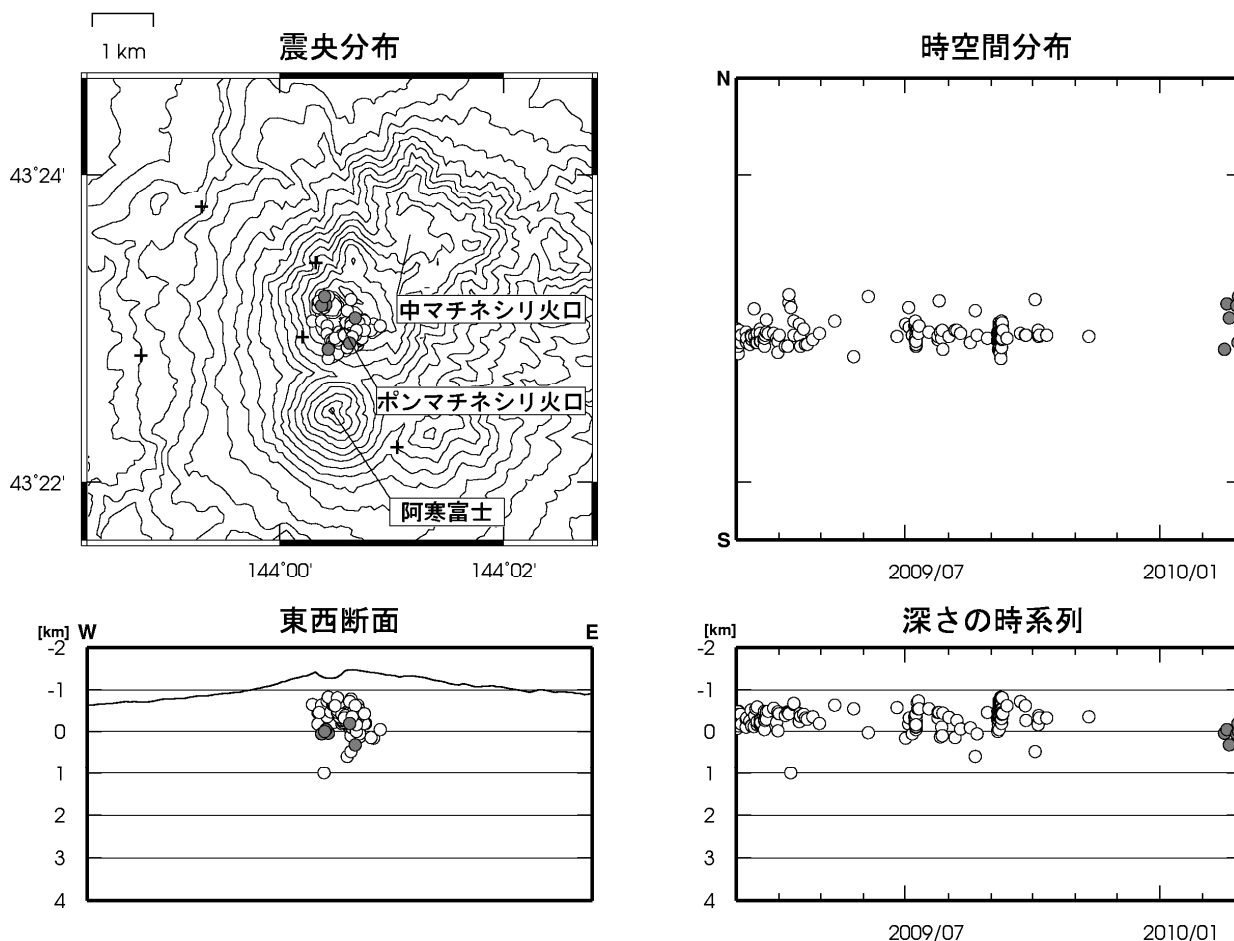


図 4 雌阿寒岳 震源分布図（2009 年 3 月～2010 年 2 月） + は地震観測点
 ●印は今期間（2010 年 2 月）の震源
 ○印は前期間までの 11 ヶ月間（2009 年 3 月～2010 年 1 月）の震源

・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口付近の浅い所（山頂から深さ 0.5～2.5km 付近）に分布しています。今期間の震源も概ねこの領域内に分布しました。

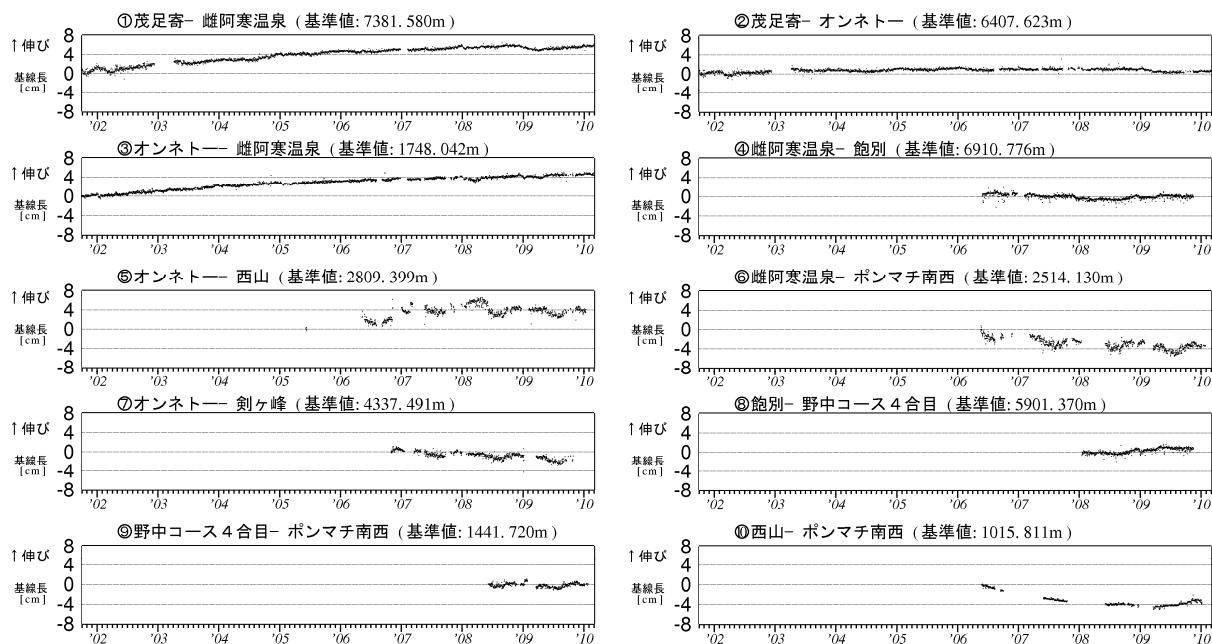


図5※ 雌阿寒岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年10月～2010年2月）
 グラフの空白部分は欠測 図5の①～⑩は、図6のGPS基線①～⑩に対応しています。
 * 飽別観測点は、機器更新工事のため欠測しています。

・GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は観測されませんでした。

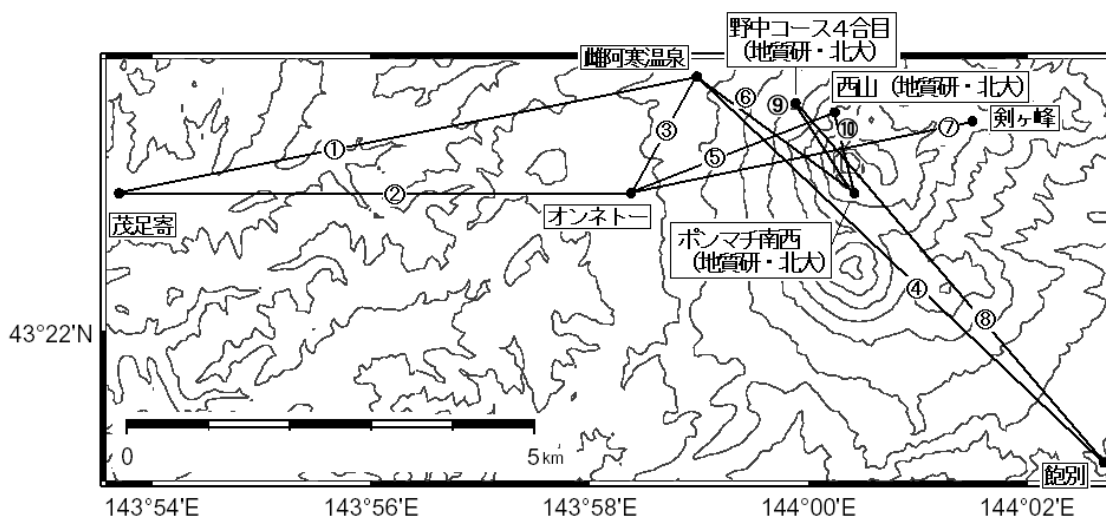


図6※ 雌阿寒岳 GPS連続観測点配置図